

中兼和津次著

シリーズ現代中国経済1 経済発展と体制移行

(名古屋大学出版会・二〇〇二年一〇月)

本書は中国の経済発展と体制移行に焦点を当てこれまでの実績を整理、分析しその特徴を浮き彫りにしたものである。近年中国に関する経済の書物は店頭に溢れており、何を取捨選択すればよいか戸惑うほどである。その多くは中国経済のみを見て、群盲象を撫でる類でそれぞれの断面から中国を切っているために、中国経済の全体像が掴みにくい。その点で本書は中国の経済発展が国際比較から見てどの水準にあるか、大きな実験である体制移行が奈辺にあるか、その相互関係はどうなっているかを極めて明快に伝えてくれる。その点ではこれまでほとんど誰も手を付けてこなかった視点であり、新鮮さが感じられると同時に中国の位置が明瞭に見えてくる。

本書は五章からなっている。第一章では経済発展と体制移行に関する基本的概念が整理され、続く分析の基本的枠組みが提供されている。第二章では中国の経済発展をクロスセクション分析と因子分析によって国際比較している。第三章では中国経済の発展を時系列分析し、その長期発展過程とその特色を描き出している。ここでは中国が「超雁行形態論」を取る可能性を示唆している。第四章では中国における移行政策の展開を毛沢東時代から跡付けている。第五章では中国における移行過程の特色を五つの移行指標によりながら国際比較し、類型化している。

そして結びでは、中国の発展・移行過程の特徴、発展と移行過程の相互関係、発展・移行と文化、中国経済の今後、が整理されている。例えば発展・移行過程の特徴として、分断構造を持ったもの、激しい地域格差を伴ったもの、外資と結びついた外向型のもの、さまざまな無理や軋みを伴ったもの、民主化や政治的権利の付与には極めて消極

的であったこと、大局的には標準的なパターンに動きつつある、の六点に集約しており説得的である。相互関係では中欧の「移行志向型」に対して「発展志向型」であるとし、文化面ではその関わりが議論され、中国経済の今後ではこれからの課題が提示されている。

全体を通して本書の叙述は簡潔できわめて明快であり、その分析内容には著者のこれまでの開発経済学への深い理論的裏づけと中国専門家としての長年の蓄積の結晶が滲み出ているといえる。中国経済を理解しようとしている一般人、ビジネスマン、学生などにとって本書は格好の手引きであり、経済発展、体制移行の問題を考える上で後学者に多くの示唆を与えてくれる。評者もゼミのテキストに加える予定である。本書からは、著者が常に新しい分野に挑戦し、先人の研究業績を越えて新しい理論的枠組みを提供しようとしている姿勢が窺えると同時に著者の若者への挑戦を呼びかけるメッセージも読み取れる。

(山本一巳)